

私は英文に出てくる「I」をアメリカ人、「you」を日本人だと考えた。個性を重視するアメリカ人に対し、他人と同調することを好む日本人という構図である。そして、私は前者でありたい。他人と同じ道を安全に進むより、自分を大切にし、自分の可能性を確認してみたいと考えるからだ。

他人と同じであることを求めて安心している風潮は日本で顕著である。これはどこから来るのか。私は以前ネット上で見た風刺漫画の画像が忘れられない。子どもたちが発言するそばから、日本人教師が吹き出しを同じ形に切りそろえていく。様々な形をした吹き出しは子どもたちの個性や想像力を表していたのだろう。

また、近年、インターネットが普及し、情報社会が急速に進んでいる。人々は「SNS」というツールを使って誰とでも簡単につながることができる。個人が自分の価値観や意見を表明すると、賛否両論がたちまち集まってくる。そして、日本社会では、それが世間一般のそれと異なっているとき、非難や嘲笑の対象となる傾向がある。私はこれが積み重なることで、個人は世間一般へと同調するようになり、さらにはそれが集積して「常識」へと昇華するのだと考える。この常識の世界では、他人と異なることはもはや「ファッション」(流行)に近い。既成の「個性」の受け売りであり、本当の個性ではない。

いまの日本社会は多く問題を抱えている。少子高齢化や過疎化など枚挙にいとまがない。そして、その根本的な解決法を見い出せないでいる。私はこれら問題の背景に他者への同調を強いる風潮があるのではないかと考える。自然の多い農山村で子育てをする人が増える場合を考えればわかるように、多様な価値観、多様な生き方、多様な個性が許容される社会を前提とすれば、問題の深刻さは和ぐはずだ。そして、そういう社会では、まったく別の視点からのアプローチを考え出す人材も現れてくるはずだ。